地球のいのちの営みと調和、融合して
に生き合うコミュニティーづくりの情報を発信する

いのちの森通信

発行／公益財団法人いのちの森文化財団　〒380-0888 長野市大字上ヶ屋2471番地2198　TEL 026-239-0010　FAX 026-239-0011
ホームページ　http://inochinomori.or.jp　Eメール　zaidan@inochinomori.or.jp

公益財団法人
いのちの森
文化財団

Vol.53
2023. Jan.
令和5年1月15日発行
編集　大島隆史

風の時代を生きる

公益財団法人いのちの森文化財団
副代表理事
塩澤 研一
農地所有適格法人
（株）水輪ナチュラルファーム　代表取締役

この3年間、私たちは極めて混沌とした時代を生きてきました。マスメディアとネットから流れてくる様々な情報がこれほど真逆な内容で流されている時代をかつては体験することがありませんでした。

SNSは今までの情報社会を一気に変えてしまう存在になり、これらの情報を読み解く力がありませんと、何が真実であるのかが判断に迷う時代を迎えています。

しかもあらゆる分野において今まで流されてきたマスメディアによる価値観が根底から覆されてしまうかのような様相を呈しています。

世界の金融、政治、経済、医療、薬学、教育、宗教、文化までが闇社会に覆われ、自然現象と思えていた事も人工的な匂いを漂わせており、一見大衆的な良識のように思える環境問題ですらその背景をたどっていくと背筋が寒くなる様な現実が見えてきます。

「持続可能な社会の在り方」というキャッチフレーズに対しても、その本質が見えてくると同様に壮大な地球規模での再編統制の流れを知ることになります。

「善意」の思いから発したかのような様々な施策もその本質を深堀していくと「まさか！」と思えるような闇が見えてくるのです。

今までは正義と悪、光と闇、真実と嘘、保守と革新など物事が二元論的に捉えられてきましたが、これもどうも怪しくなってきているように思えるのは私だけでしょうか。今まさに二千年の歴史を真剣に再検証しなければならない時代を迎えていると言っても過言ではありません。

「風の時代」に入ったと言われ、意識の変容がなされるであろう21世紀に於いて、私たちはどのような生き方をしていったら良いのでしょうか。

このような時代にあって本財団の目指すところと、それを実現していく事業内容においても時代を見据えた考察が課題となっています。

とりわけ本財団の事業計画の中にあって「高齢者の生きがい創造事業」をどのような方向で進めていくのかについても理事・評議員・監事を含め、この活動に関わる全ての方々においても真剣に検討していかなければならないと思っております。

この課題は一方で「死生観」をも深めていきませんと理解できないことでもありますので、極めて哲学的な課題であるとも言えるでしょう。

従来は年を取って生活に不都合が出てきたら「老人ホーム」「介護」「ホームヘルパー」があたりまえであり、それは国家の役割であるかのような錯覚にすら陥っていますが、ここでいうところの国家すら実は共同幻想であることが見えてきます。

人間存在の根源に立ち返っていのちの営みを再構築していかなければならない時点に私たちは置かされていることを自覚しなければ、これからの時代を生きていくことは不可能に近いのではとも感じています。

宇宙の叡智シリーズ　講演会の様子

この高齢者における課題は【人間すべての世代にも共通した課題でもある】わけですが、年齢による体力の衰え、病、気力・記憶力の低下、他世代との価値観のギャップ、理性の希薄化など大きな変化が顕著になってきます。これに対して現在の高齢者のとらえ方や施策は極めて対処療法的であり、「いのちの根源」から発する対応とは言い難いのではないと思うのです。

さて「この「いのちが輝く」生き方、老い方をどのように追及していったらよいのでしょうか。私はここに「教育と文化」の役割が存在していると考えています。この教育は他者から与えられる教育もありますが、「自己教育」という発想を重要視していく必要があると思いますし、またこれは年を重ねる前からの個々の生き様を日頃の課題として追及し続けていなければなかなか成就するものではありません。

だからこそ世代を超えて繋がり合い、生きあっていける環境が必要であると考えているのです。シェアハウス構想はまさしくこの**「他世代から学び、ともに生活し、成長する」ということの実践です。**

もちろん高齢化に伴う様々な衰えは否めないのですが、意識の進化は必ずしも年齢によって衰えてしまうものではなく、無限の可能性があることを信ずることが大きな進化と成長を促すものと思っています。

いのちの森文化財団がなぜ「教育文化事業」の中に高齢者の課題を取り入れてきたかと申しますと、老化への対処療法としての「介護・福祉・医療」の次元を超えて人間一人一人の「いのちの尊厳」を限りなく追及し、人格の完成と死への心の準備と至福の境地に至るための学びを教育と文化の醸成に求めているからなのです。

私はこの教育・文化のなかには大自然の醸し出すサムシンググレイトとも表される大いなる存在との一体感も大切な要素であると感じています。

宇宙の叡智シリーズ　ボランティアの皆様

本財団が令和3年度から続けてきた「宇宙の叡智を地球と人類の目醒めのために」のシリーズは今年5年の5月の連休にも3泊4日で開催されますが、**ここに集う人々も次の時代を生きるコミュニティの創出を意識している人たちの集まりとも言えるでしょう。この流れは単に教育・文化という意識向上の課題に対する学びだけでなく、食・農・住・衣・アート・祭りにも発展し、究極の自給自足をベースとした共同体の創出を目指しています。私たちは既に35年以上にわたってこの流れを実践してまいりましたが、令和5年は「醤油・味噌工房」の開設、野草の加工品の多目化、納豆の自家製造など自給自足を加速していきます。**

一昨年よりいのちの森グループの流れは10町歩の畑・水田から収穫できる農産物に加え山野草・薬草の採集と加工品の製造を重点的に行ってきました。**周辺部を含めて農薬や化学肥料を一切用いない山野草は、エネルギーが高いだけでなく様々な活用方法があります。薬草として効能のあるクマザサ、スギナ、ヨモギ、イタドリ、マタタビ、松葉、キハダ、ニワトコ、クズ、カキドウシ、などの他に食用としても様々な加工品ができるタンポポ、オオバコ、ハコベ（ハコベは乾燥して粉末にして自然塩と混ぜると歯磨き粉として活用できます）、ノカンゾウ、フキ、アザミ、山菜としてはウド、行者ニンニク、コゴミ、コシアブラ、ツクシ、タラの芽、イラクサ、モミジガサ、ワラビなど**も食卓を楽しくしてくれます。**お店で売っている野菜にとらわれず山野草をふんだんに取り入れた食事は訪れる方々に大変喜ばれているだけでなく、これから予想される食糧危機に対しても大きな示唆を与えているようにも思います。**

保存方法や加工品の作り方等の研究に加え、様々な実践も行ってきました。昨年からはこの自給率の向上とシステム化も強化し、設備や施設の改造改修も行ってまいりました。醤油・味噌工房は令和5年2月には竣工の予定で工事が進められており、完成後には保健所に開業の申請を行う予定です。

また**自家製として柿酢の製造やタンポポジェノベーゼ、クマザサ・イタドリ茶の製造など大自然の息吹をふんだんに用いた食材の開発を行っています。**

一方、令和5年から6年にかけては**陶房の開設と機織り工房の開設も準備したいと思っています。すでに材料や器具などは準備されておりますので一緒に推進してくださるメンバーを募集しています。是非ともご応募ください。**

そして繋がり合い心を一つにしていく「祭り」の開催です。令和5年は8月10日からの1週間「いのちの祭り」をぜひとも行いたいと考えています。10日から始まる飯綱火祭りを皮切りに様々なアートの世界が展開できればと計画しています。

この祭りはともに作り上げていくものですので、実行委員会を立ち上げ大勢の力を結集して開催したいと考えています。こちらもぜひともご応募くださいませ。

私たちは様々な学びを通して一人一人の意識の進化を図る活動をより活発化してまいりたいと思っていますが、その延長線上にこそ高齢化社会における生き方が展望できると確信しています。

本年は、この高齢化社会における「生き方」に焦点を当てた講座の開設を計画しておりますが、5月連休から始まる「宇宙の叡智・・・」シリーズはその最初の企画となります。ぜひともご参加ください。

山野草を使用した酵素作り

自然栽培大豆100%使用の醤油絞り

みんなで味噌づくり！

手作りのたんぽぽジェノベーゼ

森林共生住宅のすすめ

建築家
落合俊也
森林・環境建築研究所
国際自然・森林医学会理事

数式で表わす「自然」と「生命」

$$p \propto f^{n} \quad (n=-1)$$

「生命」と「自然」の正体が同一の数式で示されるとしたら驚きであろうか。

人間が自然の一部であることを否定する人はあまりいない。人間は自然という大きなジグソーパズルの中のひとつのピースである。だれもが感覚的にそう思えるのは、自分が自然と同じような生命を持った存在であり、機械とは別物であるという自覚があるからに違いない。

では自然とは何か？生命とは一体何かと聞かれるとすぐに答えられる人は少ない。動的平衡という言葉は、生物学者の福岡伸一さんの名付けだったと思うが、この言葉から私は定常波のリズム波形を連想し以下のことに気が付いた。

私たちの体の中はリズムで溢れている。心臓や脳波のリズム以外にも、各臓器は固有のリズムを持っているし、体温変動やホルモン分泌にも日内変動リズムがある。鼓膜や瞳だって細かく振動している。これらのリズムは、決して独立に勝手なリズムを刻んでいるのではなく、お互いに密接に関連しあった結果生まれる精緻なリズムなのである。多変量のお互いがレジリアンスを持って関連しあう複雑なリズムには独特なゆらぎが生まれ、そのゆらぎは数学的に記述が可能となる。その数式は、

$$p \propto f^{n} \quad (n=-1) \qquad ①$$

というもので、その意味は「パワースペクトルは振動数のn乗に比例し、自然と生命リズムの場合nの値は-1である」ということになる。（＊）

（＊）このゆらぎの持つ規則性の式①についての詳しい記述は拙著「すべては森から」（建築資料研究社）を参照してください。

ところで、これらのリズムの大元は何処から来ているのか。それは案外単純で、何億年も繰り返されてきた24時間の昼夜のリズム、すなわちサーカディアンリズムに他ならない。ほとんどの地球上の生物がもつ体内リズムが太陽リズムに等しいのは、そうでない生物は進化の過程で淘汰されてしまったからなのである。

一方、自然環境のリズムも生命リズムと同じように要素が多く、複雑にすべてが関連しあっている。たとえば太陽光が当たり、そこで暖められた空気が動き、気圧差を生みだし風が吹く。この様に、すべての環境要素は関連しあい複雑だが調和的なリズムを作っている。したがって、ここにも体内リズムと同じ原理で生まれるあのゆらぎがある。そして、このリズムも太陽のリズムを根拠としていることは言うまでもない。

すなわち、人体の生命を構成するリズムと自然環境の変動リズムは同じサーカディアンリズムで、かつ同じ性質のゆらぎを持っている。ということは、自然の作り出すリズムと人体が作り出すリズムは同じものであり、それ故に生命と環境は一体であるといえるのだ。

写真１－１

写真１－２

写真２－１

写真２－２

※上記写真は、森林・環境建築研究所により撮影されたものです

人と森の同調原理

人と森の関係に関して、さらに重要なことは「同じリズムは同調しあう」という物理法則である。私たちはリズムの同調とエネルギーの交換という物理的概念によって、生命と森林のエネルギー的な繋がりも理解することが出来る。

環境リズムと生命リズムとの同調原理をもう少し詳しく見てみよう。

まず同調現象とは何かというと、同じ波動同士は繋がるという物理現象である。ラジオをチューニングすることで空中の電波を捕えるのは、そのラジオ自体が同じ周波数の弱い電波を出すからである。同じ周波数の電波は繋がることが出来る。この物理的原理を同調という。

森林の持っている様々な環境リズムは、太陽リズムから生じている事はすでに述べた。さらに、そこに住むすべての生物の生命リズムも太陽リズムに同調しているのだから、森に住むすべての生物の発する声や活動エネルギーの周期も皆同調関係にあるといえる。つまり森林は、その環境リズムも生息生物の体内リズムも、すべてが同調する完璧な調和空間なのである。

このことは、比較的静寂な日本の森の中では気が付きにくいが、多様性が豊かで強い光と音に溢れる熱帯雨林の森の中にいると容易に気付くことが出来る。日本人はなぜか熱帯雨林を嫌う。その字面からあまり良いイメージを持てないのが理由だろうが、実際の熱帯雨林はとても快適な森であることが多い。熱帯雨林は人類発祥の場所であり、そこの環境に対応するようにヒトの遺伝子は進化してきたのだから、私たち人間がその環境を心地よく感じるのは当然のことだろう。

一方で、私たちの住む都会に溢れる様々なリズムは、太陽リズムとまったく無関係の機械的で偏りのあるリズムで、これは生命には相いれない性質のリズムである。

命の本質が自然のリズムと同調した動的平衡、すなわち定常波リズムであるとしたら、私たちの住む都市環境や住居環境が持つリズムは、それと相いれないものになっている事に注意を払うべきだろう。

（写真１―１、１―２）
ゆらぎにあふれる太陽と緑の光空間、それを内部化する住居の設計が求められている。

（写真１―２）
明るい朝日の来る方向と反対側の西側からのブルーライトは、体内時計をリセットし交感神経を活性化して活力を生み出す役割をする。一方で夕方からの赤い光は、副交感神経を優位にして体をリラックスモードに変える。太古の昔から行ってきた人間と太陽との同調関係を最大限に作り出す住まいの設計は住人の健康に大きく影響する。

（写真２―１、２―２）
住居の柱や梁の寸法は規格統一されたものでなく出来るだけランダムで、素地のままのほうが森のメタファーとして感受しやすくなる。仕上げも職人の手作業の痕跡が残るような仕上げが良い。一流の左官職人による土間や壁の仕上げに見られるゆらぎのリズムが皮膚を通して住人に伝搬する。

森を感じとる皮膚感覚

都市に住む私たちが森林環境に入ると、体にどんな変化が起こるのだろう。

私たちは、身の回りの環境情報を統合して処理しているのは脳だと思い込んでいるが、どうも脳だけではないらしい。皮膚の表皮ケラチノサイト内のレセプターが、脳に先立って接触している外部環境の変化を察知し、体に直接その環境対応への指令を出しているらしいのだ。それだけではなく、皮膚は音も光も周波数の違いとして感じ取ることができる。においや味を感じるのも、特化した皮膚の一部である味蕾や嗅覚細胞であることを考えても、皮膚は全ての器官を統合する最大であり最重要の感覚器といってよいだろう。

さらにまた、自然の神秘に対して畏怖の心や恐れを感ずるのも皮膚という感覚器らしい。だから、現代人のように皮膚感覚が退化すると、自然への畏怖の心も育たなくなってしまうのである。

人間は結果として丸裸の皮膚を使い上手に環境適応を行い、脳を発達させて他の生物に抜きんでる進化過程を生き延びて繁栄することが出来た。皮膚はその点においても人類の繁栄を生み出した最前線の器官といっても良いだろう。

ところが問題は、現代は衣服と建築設備のせいで皮膚感覚の出番がなくなってきた事である。目と耳という強力な器官に比して皮膚感覚が地味な立場に甘んじるのは、私たちの皮膚の外側の第２の皮膚である服と、第３の皮膚である住居、さらに第４の皮膚といえる都市環境のせいでその役割を封印されてしまったからだろう。

いくら温かい家があっても太陽リズムが作り出す外の自然と、同じく太陽リズムが作り出す人体の中のリズムは繋がっていなければ、真の健康を得ることは出来ない。一律の快適感を求める現代建築環境の方向性を正して、体の内と外を繋げるインターフェイスとしての皮膚と同じ立場で衣服や住居を作るという新たな視点が求められている。

これらのことを主要テーマに、ある住居計画が水輪の近くで進められている。完成の暁にはぜひ訪れていただき、森のリズムと命のリズムの同調を建築を通して体感していただければと思う。私たちが都会を離れて自然の森に来る目的は、私たちの人体にとって理想的な環境カプセルである森の環境リズムと、私たちの体内のリズムを同調させる皮膚感覚を取り戻すこと。そのことで、同時に自然に対する畏怖の心を育て、体と心の真の健康バランスを取り戻すことが出来るのである。

写真３－１

写真３－２

写真３－３

写真３－４

※和久倫也　WAKUWORKS 株式会社により撮影

（写真３―１、３―２）
木の年輪のリズムと一流の職人の手仕事が生み出すゆらぎのリズムは共通している。したがって同じリズム同士が同調することによって職人には納得と満足感が生じるのである。

（写真３―３）
土壌とのつながりも重要。体内微生物と健全な土中環境が育む微生物のつながりも実質的な自然と人間のつながりといえる。健全な土中環境の創出には土中水脈と空気の循環が不可欠である。土中の水脈や空気の流れを地形や植生から読み取って土中環境の整備をすること。このことが建築工事において重要なステップであることが現代ではまったく忘れられてしまった。

（写真３―４）
土中環境の微生物と我々の体表面の微生物環境は連続している。さらに体表微生物環境は腸内微生物環境に連続している。だとすると健康な土壌環境を創出し、その上の建築内部の微生物環境とつながりを持たせなければならない。建物が高層化するほど建築内は土中微生物から離れた別の微生物環境になることが分かっている。現代の建築工法では地盤工事は土中環境を破壊することから始まっていることが大きな問題である。まずは健康な土中環境を整え、それに呼応する建築を作る新たな工法を開発するべきだが、それには伝統工法から学ぶところが多い。

安らぎの境地へ至る魂の解明

五島秀一

物理学者
中小企業診断士
宇宙哲学研究家、気の舞舞踊家
（一財）秀物理学研究所代表

もしも人に、魂の声なるものが聞こえてきたら、いったいそれはどのように聞こえるか。

私たちは皆、生身の人間であるがゆえに、自分の立場に寄り添う形で、コメントを与えて頂きたいと思うのが、人間の性（さが）である。

しかし考えてみれば分かるように、人生というのはまったく通りすがっただけのような人から、貴重な話を頂いたり、親の話にしても極々、断片的な話の中からのみ人生のヒントを得るのである。私たちは皆、人生というジグソーパズルを目の前にして、実は面食らっているのである。

私たちは誰一人、そのジグソーパズルの全体像を見せられることは、遂に無いと言ってよい。そしてこの人生には、実に驚くべきことが次々と起こる。絶望のどん底に落とされたり、喜びの絶頂の頂きに立ったりもする。ゆえに、仮に神がいたとしても、私たちはその神の御心の全体像をつかむことは、到底でき得ない。

誰もが完全には納得しない形で人生を送り、そうして時折、目の前の草木や、あどけない子どもたちの笑顔を見て慰められるのである。欲深き人間は、なんだこれっぽっちかと思うかも知れん。だが、年数を重ねたそれすら味わえない人がいることを知って愕然とする。ゆえに、星の瞬き、風の梵（そよぎ）、花が風にそよぐ様を見たとき、幼な子の笑顔を見たりして癒される者は幸いなのだ。

誰もが人生の重荷を理解してもらいたいと思う。心無い言葉を言われると大いに傷つく。それほど、私たちは長い長い人生という砂漠を経る過程で、実に魂は喉がカラカラになるが如く渇いているのだ。十字架で息を引き取る直前に、かのイエスキリストも言ったではないか。「我は渇く」と。しかし、生きている間に自分の人生が価値多きものであったと納得せずに死ぬとすれば、これほど悲しいことはあるまい。

しかも私たちは、いつ自分の死がやって来るかを完全には予期することができないのである。ゆえに、ここに問題が起きる。何をもって自分の人生を幸せと断定することができようかと。もちろんそれは、年齢や職業、経験によって違う。君は今、人生の幸せを総括する時期に来ている。自分の長いようで短かった人生を振り返り、これを幸せと言えるか、不幸せと言えるか、あるいはそんなに単純に割り切れるものではないのか。

君の心を満たすものは何か？あるいはぽっかりと空いた穴を埋めるものは何か？君にとって最大限に価値のあるものは何か？それは人か物か出来事か？

君は実に不思議な魂である。人生の様々な悲哀や喜びを経験しながら、なおかつ、そんな自分を違うところから見ている自分を感じている。君は自分の人生を演ずる役者であると同時に、君の人生という物語を読む読者ですらある。

いいかね、君はかつて幸せな結婚生活を夢見て、そしてそれが実現したかに見えた。しかしやがてそれが大きな悲劇を生んだのだ。君は幸福を演じようとした。つまり人生の役を演じようとしたのだ。幸福な女の人生を。

しかしね、君は今、本当の自分に気が付く時期に来ているのだ。君は本当は幸せになることを求めていたのだろうか？周りの人が幸せを求めているから自分も幸せを求めなければいけないと、そんな風に思ったのではないか？

いいかね、**今こそ君は自分の魂の声に耳を傾けなければならない。君が求めたのは、ありきたりの女の幸せでもなければ、一般常識的にいう満たされた生活でも全然無いのだ。それは、世間の照準からすれば変わっていると言えるかも知れん。だが、君は君でしかない。君が君以外になることは出来ない。どう高望みをしようと、別の人生を送りたいと切望したとしてもだ。**

いいかね、今こそ君は君の魂の声を聞きなさい。君が目指したものは、幸せというもので一括りにできるような状態ではない。

では何を求めていた？人はこの世に生まれるからには、何かを求めてこの世に生まれてきたということは確実である。そして多くの人はそれは幸せだと言う。

本当にそうだろうか？全人類がこの課題に直面しなければならないのだ。本当に幸せを求めているのか？もちろん、不幸せを求めている人間は一人もいまい。

いいかね、20世紀はね、私たち人間が幸せになるために生まれてきたと勘違いし、しかもそれを物質的な条件に置き換えたのだ。広い家に住み、大きな財産を持つ。

いいかね、21世紀、そろそろ私たちは本当は何を求める存在なのかに、気が付くときに来ているのだ。全人類が新しいステージに到達しようとしているのだ。

五島先生による気の舞・気功演舞

いいかね、如何なる哲学者もこの問いに答えてはくれない。一人ひとりが胸に手を当てて、何を求めて生きているのか、これを考え直す時期に来ているということだ。

いいかね、もし幸せを単純に求め、なおかつそれだけが人間の願いなら、慈悲深き神はとうの昔に幸せを与えているとは思わないかね。人間の親ですら本当はお菓子を与えたくないのに、必死でお菓子が欲しいと言えば、お菓子を与えるではないか。我々以上に慈悲深き存在が、私たちの叫びを無視したもうわけがないのだ。

よいか、今回のタマヒリは君の前世でも来世でも天国でもない。**君の魂の解明だ。**

20世紀、私たちは大きな勘違いをして生きていたのかもしれない。人は誰もが幸せになりたいと。そんな単純で浅はかな一言で、全員の人生を一括りにしてしまった。そして、未だ幸せになっていない人、可哀想な負け組としてレッテルを貼ったのだ。果たしてそんなものだろうか？

例えば、西洋人の人生観の根底には新約聖書があるとよく言われるが、だが新約聖書を深読みした人間が何人いるかね？新約聖書を深読みしたまえ。しからばイエスが聖書の各小節ごとに次の言葉を発していることに気が付く。「私の平安をあなた方に送る」と。幸福という言葉は使っていないのだ。この証拠に私達は注目すべきである。私達は新約聖書を勘違いして解釈した。しかもそれが約2千年も続いたということだ。

彼が聖書に於いて最大の力点を置いたのは平安、サンスクリットではシャンティという。これからあらゆる哲学、宗教、信条、経営が根底から見直されるときが来る。本来の目的に立ち返った者だけが、全ての闇を反転して光の世紀を築くに違いあるまい。ゆえに私は次のように力説する。

君の魂は、紛れもなく今日の人類への紛れもなき提言を続けているのだ。

人の魂は実は平安を求めている。幸福の絶頂でもなく、踊り上がるような喜びでもない。幸福ならば、種々の物質的な条件が必要だろう。豊かさ、友達の数、人から褒められた数。だが平安は違う。人の助けを借りない。自ら作ることができる。幸福という言葉は舞い上がらせる。平安という言葉は私たちを落ち着かせる。

幸福は自分よりも成功した人間を見るとついその人間を真似したくなる。しかし平安は違う。他人がどれだけ成功しようと失敗しようと、当人にとっては全く関係の無い出来事なのだ。当人自身の生活に、深く根を下ろし、自分自らを生きる。これが平安という言葉の持つ威力である。

愛と思いやりに満ちた五島先生の講義

君は、同世代の女性とはずいぶん変わった人生観を持っていると、自分でも思っているし、周囲の人間も思っているに相違あるまい。しかし、そんなことはどうでもいいことだ。私は直ちに君の魂の核心に迫ろう。

君は安らぎを求めていた。君の元夫は幸福を求めていた。しかし、君は違ったのだよ。君は安らぎを求めていたのだ。その違いがはっきりと分かったのは、残念ながら結婚して時間が経ってからのことだった。**しかし、それは失敗だろうか？ここではっきり、成功と失敗の定義を宇宙的にしなければならぬ。君は君自身の魂の本質に気が付き、自分が本当は何を求めているかを知って、そこに立ち返ったときを成功と名付けるなら、君の人生は成功だらけなのだ。**ゆえに君は自分の人生を総括し、このように句読点を打ち給え。

私の人生は安らぎを求めていた。この原点に立ち返ることができた私の人生は実に成功だらけであると。このように気が付くなれば、君の潜在意識は直ちに活動を起こし、自分のこれまでの生活のどこに安らぎがあったか、何が幸せであったか？何が幸福であったか、直ちに分別を始めるだろう。

そして、私が申し上げた通り、君の潜在意識は直ちに活動を起こして、君の人生の過去の出来事の数々の中から、安らぎというジャンルに君の人生が傾斜していたことに気が付くだろう。他の女性と、生き方が変わっても、そんなことを気にする必要は全くないのだ。何度も言うが、君の魂は安らぎをこそ求めていた。この安らぎを得るのに多額の金品は必要としない。

いいかね、本当に大切なものはお金では買えないのだ。あと数年で全人類がこのことに気が付く。先んじて君はこのことに気が付け。そして君の魂を落ち着かせよ。私たちはまだ、自分の魂を落ち着かせることに慣れていない。魂は常にふわふわとして、自分の目的以外の物に興味と関心を移し、人生の大半を無駄に過ごす。

何度も言おう。君の魂は安らぎをこそ求めていたのだ。それは君だけではないぞ。先駆者としての魂は皆かような基準を持っている。ただそれを世間の誰もが指摘しなかっただけだ。**この地球に生まれた誰もが、生まれ変わりの最後に気がつかなければならない大切な真実、魂は幸福というより安らぎを求めているということだ。そしてそれは、他の誰の助けも借りずに自ら作ることが出来るし、またそうしなければいけないということだ。**

神よ、今、この者が人生の暗闇の中に差し込んだ一筋の光明を手掛かりに今、新たな人生を築こうとしております。そして、この者にとり、今の私のこの言の葉が大いなる助けとなり、新たな人生を切り開く縁（よすが）となりますように。世界の温もりの根源に触れよ。

まず、第一に生活のすべてを祝福しよう。自分がこの世に生まれたことを祝福しよう。色々なことが次から次へと起きたが、にも関わらず、君は持ち前の快活さと親切心で乗り切った。まず、それを祝福しよう。

父と母の出会いがあり、幼少期を経て、類稀な知的好奇心、明るい楽天的な心と、世界のあちらこちらを旅して周り、青春の踊り上がるような喜びを経験し、このままラストシーンを迎えるかと思いきや、**最後に到達するのは深い安堵に満ちた安らぎの境地なのだ。**人はいずれ、この世を去らねばならぬ。去ってあの世に帰ったとき、何が起きるか教えてあげよう。自分の知識も経験も、すべてを天使に捧げる。その上で天使は、最大の歓喜を私たちに与えてくださる。それが人間の真実だとしたら、生きている間にこれを為すことだ。

君が今住んでいる家を、天使の館としなさい。天使が住み給うならこんなリビングに住みたもうだろう。　天使が好みそうな絵とは何だろう？天使が好みそうな皿とは何だろう？

いいかね、女性というものは男性に好き勝手に弄ばれて、被害者意識だけで終わる人生ではないのだ。太古の時代はそうではなかった。実に喜びを創り出す原動力であった。

光が広がりますように
神よ、光を広げたまえ
光を差し込みたまえ
宇宙の天上の光を

五島秀一（ごとうしゅういち）略歴
一般財団法人秀物理学研究所代表理事。物理学者、中小企業診断士、経営コンサルタント、超越気功協会会長、歴史波動研究会会長、氣の舞舞踊家。
広島大学理学部数学科卒業。大学時代より、宇宙の秩序と調和を見い出す宇宙論を研究。30年近くにわたり、科学者として地球環境問題、気功家として人々の心身の問題を解決するため揺るぎない利他の精神をもって活動し続けている。幼少の頃より、類稀な霊的能力を発揮。宇宙高次元との確かな繋がり、数々の奇跡や様々な超能力を発揮するも、人としての生き方を説くことに重きを置いている。

直観力を磨く

退化した能力を呼び覚ます

感覚感知学研究家
細金勝治
公益財団法人いのちの森文化財団評議員
（株）とやの健康ヴィレッジ役員

感じるということ

私は畑の専門家ではないのですが、ヒントとして使えると思ったら、それをうまく活用してもらえればと思っています。

私は畑の知識はまったくありません。だけど感じるのです。これはすごく大事なこと。私たちの体は使えば元気になる。使わないと衰える。感じるというのは第六感や七感のことですが、こういったことは義務教育の中ではまったく教えません。私たちは生まれてから約80年、スーパーコンピューターである脳の機能を10％くらいしか使っていません。もしスマホを電話機能しか使っていないとしたらすごくもったいないことですね。

また虫やコウモリは私たちには聞こえない超音波を聞けますが、私たちは低い音しか聞こえない。虫や鳥は私たちの5倍も6倍もの音が聞こえています。それと同じように、本来私たちは縄文時代にはそういう能力があったのです。花や虫、動物、野菜の声を聞くことができました。でも今の私たちはその能力が退化してしまいました。ただそうした能力を呼び覚ますというのが、今私がやっていることなのですね。そうすると色々なことを感じられる。感じたことを実際に検証して試してみて、「やはり正しかった」となれば、その感じたことは正しかった、ということになります。野菜を感じてみる、土を感じてみる、この感じるという能力が、感性が上がってくるとわかるようになるのです。それが響いてくるようになる。

すべては響くかどうかである

私たちの社会はすべて響くか響かないかだけです。響かなかったら何にも変わらない。すべてが受信と発信。テレビでいうなら、電波を発信しても受信者がそれを受信しなければテレビは繋がらない。これは私たちの健康も運も同じように、変わるかどうかは共鳴するかしないかだけなのです。自然界には絶対に一方通行はありません。

私は自然のしくみや法則を一生懸命に勉強しておりますが、私たちは自然の産物なら自然のルールに生きるはずです。でも残念ながら私たちの社会文化は自然の中に生きていない。自然界は全部アナログです。でも私たちの生きている文化はデジタルです。だから携帯やスマホなどのICと私たちの脳のコンピュータは合わないのです。

私たちの神経細胞が犯されるのは、デジタルとアナログで相性が合わないからです。ではデジタルとはどういうものか。わかりやすく説明するならデジタルの方が都合がいいのです。アナログは1から50に飛ばない。でもデジタルは1だったものが10になったり50になったりする。山の風景は赤、青、オレンジなどのように区切っていない。切れ目がないですね。これではわかりにくいから、色を区切ったりしているわけです。今の私たちの文化は自然界ではない。自然界は必ず表と裏がワンセットであり、表だけほしいと言っても無理なのです。裏が必ずくっついてくる。

自然界は「愛と調和」で成り立っている

自然界の究極の法則は、「愛と調和」です。だけど愛よりも実は調和のほうが大事なのです。それはなぜか。調和は表と裏でしっかりとうまくバランスをとっている。自然界は調和が取れるほうに動きます。しかし私たちは表が良いものであると見たら、裏が悪いことと見てしまう。そうすると良い人と悪い人はワンセットなので、悪い人をなくそうとしてもなくならないわけです。裏という影をなくすためには、表という光をなくさないといけない。この仕組みがわかれば、片方をなくすのではなく、うまく生存して影響を受けないようにすればいいということがわかります。自然にそって生きればいいのだというのが分かってくるのです。

土の中は酸素を好む好気性の菌が半分、酸素を嫌う嫌気性の菌が半分いますが、これで色々なことが成り立っています。でも今は残念ながら、一般に使われている化学肥料は好気性の菌が好む肥料だけになっています。なぜか。それは人間の欲が作っているからです。早く大きな実をつけてほしいという人間の欲です。でも自然界は早く大きくなるというのがないのです。周りと調和を取る。だから柿は大きな実の時は数が少なく、小さな実の時は数を多くつけます。全部調和を取っているのです。だから好気性の菌だけを可愛がると人間の欲は叶いますが、ある時点で不調和が起きてきます。土壌が荒れるわけです。そこで嫌気性の菌を元気づけるために性質が反対の様々な土壌菌を入れて、嫌気性の菌を元気にすると土壌が蘇ってくる。全部が必ず1つの調和をとっているのです。

細金先生の熱い講義に皆真剣です

私たちの体も、水も、本来はpHが7くらいの中性の水です。でも私たちが病気になると、水を電気分解してアルカリ性と酸性に分けることがあります。アルカリ性というのは体を還元しますが、酸性水はその反対になります。アルカリ性の水がほしいと言っても必ず酸性水が出てくる。それでアルカリ性の水を飲むと、酸化した体は元気になりますが、偏った水だから飲みすぎてはいけないのですね。最後はまた中性に戻していく。でも人間が作るものは必ず偏っている。中性が少ない。うまく使えば良いのですが、過剰に使ってしまいます。食品にしてもサプリメントにしても、例えいいものであっても、過ぎた摂取は害になるのです。

自然界は同じものを作らない

そして最後は相性が大事です。今世界人口が80億人になっていますが、自然界は同じものを1つも作りません。似ている人はいますが、同じ人はいません。そうすると合うものが違います。でもこれが自然なのです。もし「これは誰にでも合う」というものができたら、それこそ不自然です。今日の私と1週間後の私は違う人であり、諸行無常と言いますが、常に変化しています。1年前の自分と今日の自分はまったくの別人。合うものが違ってくるのが当たり前なのです。

例えば、私たちの社会では契約書というものを書きますが、なぜ書くのかというと、心が変わるからです。変わるのが当たり前なのですが、この世の中は変わってもらうと困るから、ハンコを押して契約するわけです。でも本来は変わるのが自然であり、心も体もすべてが変わり、変わると自分に合うものも変わります。

例えば先日、ちょっと体調が悪いという人がいたので、その人をよく見てみると、体に合わないものを食べていることがわかりました。でもその人は悪いものは食べていないというので、何を食べているのか詳しく聞いてみると、実は納豆を朝昼晩の3回食べていることが分かりました。納豆自体は悪くはないのだけれども、食べ過ぎたら良くないわけですね。

またサプリメントはすごく怖い面があります。サプリメントは栄養補助食品であり、不足している栄養を補うためにとる食品です。この1つの錠剤の中にレモンが百個分とか、アサリ50個分とか書いてあります。本当にいいところのみを抽出しているわけですから、飲み方を間違えたらものすごく体に悪いということがわかっていないのです。飲み方を間違えたらすぐ害になる。だから1週間飲んだら飲むのを休んだほうがいいかどうかをチェックする、2週間飲んだらまたチェックする。ここが大事なのだけれども、ほとんどの人はそれをやっていません。

もっと細かく言うと、「あなたはリンゴは食べないほうがいい」「海藻が合わない」「豆乳ヨーグルトならいいけれど、チーズやバターは腸内細菌と相性が悪いのでこうしたほうがいい」というのがあるのですが、この辺のことはほとんどの人はわかっていないのです。でもこれは感じたら全部わかります。

虫や鳥はそれを感じ取ります。ほぼ間違えません。渡り鳥にしても電波を受診発信しながら飛んでいます。そういう能力を本来は私たちも持っているのだけれども、ほとんど退化してしまっています。それを少しでも呼び覚ますには訓練が必要です。

野菜や土と交流する

ではどうすれば良いのか。まずは鉱物、植物、動物などと自分は交流なんてできないと思っているとできません。人間は思った通りになる。だから野菜や土とコミュニケーションをしようと思えばできます。毎日そういう気持ちで植物や土と接すると、だんだんその回路が開けてくる。そうすると、「今日の野菜は元気がないな」などのことが伝わってきます。これが本来は人間が持っていた能力の1つです。これをやっていたのが縄文時代の人たちです。だけど弥生時代になると、知識の方が優先されてしまい、感性を使わなくなってしまいました。筋肉も1か月2か月入院したら、ものすごく落ちますね。退院してから筋肉を元に戻すには1年も2年もかかってしまいます。落とすのは簡単ですが、作り上げるのはとても難しいのですね。退化したものを呼び起こすのは簡単ではないのですが、渡したちはその素質は持っているということです。野菜や土と交流をすると、野菜が語りかけてくるのです。私はもう高齢であとどのくらい生きられるかわからないけれど、若い皆さんはぜひ、自分のスーパーコンピューターを研ぎ澄ましてください。そういうことをやっていくことがこれからの世の中には必要なのです。

公益財団法人 いのちの森文化財団からのお知らせ

公益財団法人 いのちの森文化財団では、
以下の公益目的事業への寄附金を募集しています。
①「高齢者のための生きがい創造基金への寄付」
②「青少年の社会復帰と自立のための育成活動への寄付」
③「東日本大震災被災地の子供たちの教育を支援する活動（保育園へのお野菜支援含む）」
④「いのちの森の会費（一般寄付）」

※当財団への寄附金及び会費は、特定公益増進法人への寄附金として、所得税・相続税・法人税の税制上の優遇措置があります。また一部の自治体では、個人住民税の寄附金控除の対象となります。（詳細は善意の循環のチラシをご覧ください）

宇宙本体と繋がっている
普遍的な深い意識感覚を体感

直観力養成講座
細金勝治先生

2023年
第1回目 6月10日（土）～11日（日）
第2回目 10月14日（土）～15日（日）

宇宙の叡智を地球と人類の目醒めのためにシリーズ5

2023年5月4日（木・祝）12時～　7日（日）12時半

五島秀一先生：基調講演「宇宙と人間の歴史から、今後を展望する」
白鳥哲監督：基調講演「祈りのとき 霊性進化の鍵はバイブレーション（振動）」
光田秀先生：基調講演「《神》との親しき交わりを生きる」
森井啓二先生：基調講演
「魂を輝かせるために－真理を見るには自分の内側を探求すればよい。」
特別出演　Shaylee Mary 氏
「自然と人との繋がりを大切にし、愛と調和と平和への願いを込めながら活動」
塩澤みどり：「宇宙の叡智を地球と人類の目醒めのために、霊性を開くシリーズの主催」

五島秀一先生

光田秀先生

白鳥哲監督

Shaylee Mary 氏

森井啓二先生

塩澤みどり